



古代出雲歴史博物館見どころガイド

お出かけ予定日：2015年4月29日

島根県立古代出雲歴史博物館で展示中
企画展名称 常設展示

宇豆柱

1 出雲大社と神々の国のまつり 1 土地にうもれた神話 宇豆柱



巨大柱（宇豆柱）の太さはどれ位？、材質は何？、年輪はどれ位？
この柱は鎌倉時代の1248年（今から約760年前）の出雲大社の本殿を支えていたものです。1本あたりの直径は1.3m、3本たばねると約3mになります。材質は杉で、年輪は150年から195年です。

歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド
下

鎌倉時代

出雲大社本殿模型（平安）

1 出雲大社と神々の国のまつり 2 巨大柱の顕現 出雲大社本殿模型（平安）



平安時代の出雲大社の高さは4.8m？
この模型は、巨大柱の発見（2000年）前に、平安時代（約1000年前）を想定して設計された1/10模型です。その当時、高さが16丈（約4.8m）、階段の長さが1町（約10.9m）あったという伝承があります。

歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド
下

奈良・平安時代

本殿復元模型

1 出雲大社と神々の国のまつり 2 巨大柱の顕現 建築学者の本殿復元模型



2000年に、出雲大社から発掘された巨大柱が支えていた本殿はどのようなものだったのでしょうか。
5人の建築史家が1/50スケールで再現した模型です。最も大きいもので高さ4.8m、最も低いものでは高さ2.4mで復元してあります。資料の見方によって復元する形は異なってくるのです。

歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド
下

鎌倉時代

出雲大社本殿の千木・勝男木

1 出雲大社と神々の国のまつり 3 高さへの意識-大社造と祭儀の変遷 本殿千木・勝男木（昭和28年遷宮撤下）



現在の出雲大社の千木の大きさはどれ位？
この千木・勝男木は、昭和28年（1953）の遷宮の時まで、実際に使われていたものです。材質は杉です。千木の長さは8m30cm、重さは約500kgの巨木です。出雲大社の本殿の一部を間近で見られる唯一の場所かもしれません。

歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド
下

明治時代

古代朝酌市の一画の復元模型（1/1）

2 出雲国風土記の世界 3 市と渡しに集う人々 朝酌の市、ある日のできごと模型（1/1）



古代（奈良時代）の市場では、どのようなものが販売されていたのでしょうか。
入海（現在の中海・宍道湖）でとれた魚、山でとった動物、薬草をはじめ、農作業に用いる道具や土器なども販売されていたと考えられます。支払いにはお金も使っていたようですが、米や布などがお金のかわりをしていました。

歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド
下

平成時代

荒神谷遺跡青銅器と加茂岩倉遺跡銅鐸

3 青銅器と金色の大刀 2 島根の青銅器 加茂岩倉遺跡出土銅鐸



青銅器は何に使われたのでしょうか
荒神谷の青銅器国宝、加茂の銅鐸は重要文化財に指定されています。これが展示室一面に展示されている「緑の空間」は圧巻です。この青銅器ですが、何に使われたのかはよくわかりません。一説によれば、豊作の祈願など、祭で用いられたとされています。

歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド
下

弥生時代

三角縁神獸鏡

3 青銅器と金色の大刀 6 鏡とともに 景初三年銘三角縁神獸鏡



卑弥呼の鏡？！

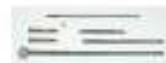
鏡の縁が三角形をしており、裏面に神獸の姿があることからこの名があります。この鏡には「景初3年（239）」を含む41文字が刻まれています。『魏志 倭人伝』によれば、この年、邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送り、魏から銅鏡100枚を授かったとあります。もしかするとそのうちの1枚？。

歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド

古墳時代

双龍環頭大刀

3 青銅器と金色の大刀 9 出雲の豪族と中央の豪族 双龍環頭大刀



本当に古墳時代の大刀？

本当です。出土品の鉄刀というと、錆だらけの姿を思い浮かべる方が多いでしょう。しかしこのかわらけ谷横穴墓出土の1400年前の大刀は奇跡的な保存状態で見つかっています。刀身だけではなく、鞘もその模様がわかるほど完全に残っていました。刀は今でも切れそうです。

歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド

古墳時代

三瓶山の縄文杉

4 島根の人々の生活と交流 2 しまねの旧石器人と縄文人 三瓶山埋没林輪切り標本



三瓶の縄文杉の年輪はどれくらい？ 樹齢は約450年です。

1998（平成10）年、三瓶山麓の小豆原地区（大田市）から、3600年ほど前（縄文時代後期）の巨大林が発見されました。資料はそのうち1本の輪切り標本です。

古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド 古代出雲歴史博物館 見どころガイド

縄文時代

御取納丁銀

4 島根の人々の生活と交流 8 輝きの世界へ 石見銀山 御取納丁銀



なぜ「御取納」丁銀と呼ばれているのでしょうか

この銀は、今からおよそ450年前、正親町天皇（おおぎまちてんのう）の即位の時に、毛利氏が献上したものです。即位式の費用として納められた特別の貨幣だからこの名があります。「御取納」の刻印をもつ丁銀は現存唯一ともいわれています。

体験する 歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド

室町・戦国時代

天秤ふいご体験模型

4 島根の人々の生活と交流 9 鉄の炎 島根のたたら 江戸時代の鉄生産



「かわりばんこ」という言葉はここから出たの？

ふいごを踏む人を「番子」といいます。一説によれば、番子が交替でふいごを踏み、炉に風を送ったことから「かわりばんこ」という言葉が出たといわれています。展示の天秤ふいごは実際に踏んでいただけますので、作業の大変さを体感していただけます。

体験する 歴博を見学 古代出雲歴史博物館 お勧め1時間見どころガイド

明治時代